「西ドイツにおけるマシーネンリングの実態と問題点」（その２）

津　田　庄　一

本稿は、『食品と経済』第８号に寄稿した「西ドイツにおけるマシーネンリングの実態と問題点」の続稿である。当初このテーマで何回か連載を書く予定であったが、不節制がたたって病床に臥してしまい以後の寄稿を躊躇していた。編集委員から重ねての原稿依頼があり、ようやく続編を寄せることにした。ともかく前回分（第８号）と併せてお読みいただきたい。

2　マシーネンリングとパートナーシャフト
マインブルク・リングの事例

(2) 調査農家のリング活動

会員農家間のリング活動を図式するならば図３のようになろう。会員加入は自由であり、所定の入会手続きをして会費を払えばよい。入会手続きは住所、氏名、電話番号、家族構成、土地利用方式、経営方式、農業機械設備などを会員カードに記入してマネージャーに提出し、並びに指定取引銀行と口座番号を明らかにすることであり、会費は入会金、経営割年会費、農用地割年会費を支払うことである。マシーネンリングは会員どうしに限定される作業の委託、受託をできるだけ数多く仲介すること、異なる個別の経営形態をもとにいかに種々の作業需給を完結させるかを本質的課題としている。

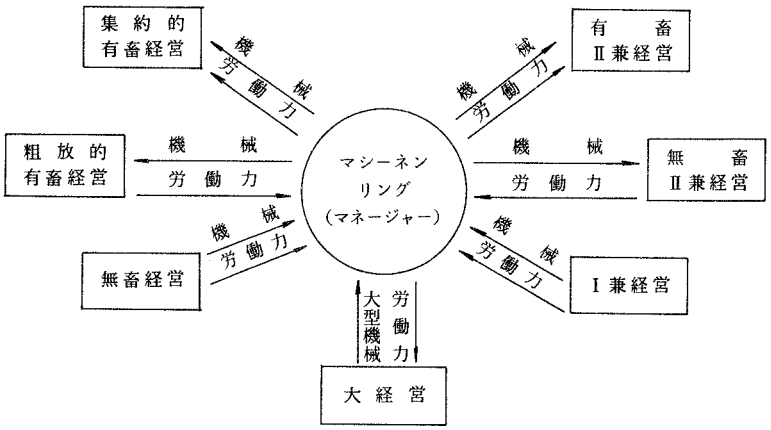

図３.　経営間におけるリング活動

資料：バイエルン州マシーネンリング管理委員会「MR－Intern」1/80 P. 1－2

①　M．ピックルマイアー氏

マシーネンリング活動の実態にふれたいと最初に訪ねたのはピックルマイアー氏の経営である。彼は経営合理化をめざして父から経営を任された74年にリングの会員となっている。79年はリングに経営割12マルク、農用地割18マルクの計30マルクの年会費を支払った。経営概況は表４のようである。経営地18 ha、ポップ作と酪農、養豚の複合経営を家族労働４人で営んでいる。

表４　M．ピックルマイアー氏の経営概況

経営規模	経営面積	18 ha	家畜	搾乳牛	14 頭
	農用地	16 〃		育成牛	12 〃
	林地	2 〃		繁殖豚	1 〃
	畑地	5 〃		肥育豚	4 〃
	ホップ地	5 〃		成鶏	10 羽
	草地	6 〃	労働力（家族）	世帯主	0.2（52歳）
	自作地	14 〃		妻	0.5（51〃）
	借入地	4 〃		長男	1.0（25〃）
作付作物（畑地内訳）	冬小麦	1.7 ha		妻	0.7（24〃）
	飼料カブ	1.3 〃		次男	－（21〃）
	サイロトウモロコシ	2 〃		三男	－（15〃）

資料：　1980年６月の個別調査による。

経営収支を大づかみにすれば粗収益が168千マルク、経費が105千マルクである。収入の内訳はホップ作から79000マルク、畜産から51200マルク、穀物から4500マルク、そしてリングの仲介で受託した作業料金が33200マルクである。地域の基幹作目であるホップ作を経営の中心としているが、ホップ栽培は普通作目にくらべて機械化が進んだとはいえまだまだ人手が多くかかるのが現実であり、彼の経営も労力的に限界規模にある。

78年にピックルマイアー氏は２ha足らずの穀作地には100倍も大きい能力のコンバインを購入した。もちろんリングの仲介によるコンバイン作業の受託を前提にした決断であったが、これには「ピックルマイアー氏が若くて機械の操作技術に優れているし、リングでコンバイン作業の需要が年間100ha程度は十分に確保できる」というマネージャーの助言が大きく影響していた。収穫期ともなればコンバインの運転席にセットした

無線装置で遂次マネージャーと連絡を取り合い、計画的・能率的に受託作業を処理している。79年には21戸の会員農家160haでコンバインを稼動させた。このペースでコンバインを使えば4年間で十分に償却できる計算だという。

リング活動の収支は33220マルクの収入、209マルクの支払い、差し引き33011マルクの黒字となる。作業売りによる収入の最も多いのはコンバイン作業の28808マルクであり、次いで草藁梱包作業の425マルクなど、対して作業買いによる支払いはホップ栽培に入れた補助労力の150マルクなどである。

彼はリング活動によって、ホップ栽培の労働ピーク時には他の会員農家から補助労力の援助を受けて労力不足を解消させ、保有する機械と労働力は他の会員農家に出動して25%の追加収入を実現している。彼自身は臨時の補助労力として延べ60日以上を他の経営に出動して3533マルクの労賃収入を得ている。家族労働力は彼ら長男夫婦が主に圃場作業を担当し、73年に事故で片腕を失った父と母が乳牛および豚の世話をすることによって応分の就労の場を分担している。

②　G．スタイガー氏

リングの仲介をつうじて機械作業の売手になり、所有機械を効率的に利用している事例としては次のスタイガー氏の経営もそうである。経営内容はホップ作と養豚の複合経営である。表5に彼が所有する機械とその利用状況を示したが、コンバイン、バキュームカー、トウモロコシ播種機などのリング仲介による作業売上げが目立ち、反対にトウモロコシ収穫機や草藁梱包機などは所有せずにリングの仲介により他の会員農家に委託していることがわかる。

さて、79年のリング活動を7年前の73年当時と比較してみると、受託が12860マルクから16780マルク、委託が1050マルクから1180マルクへと順増しているものの、この間の作業料金値上げ分を差し引くと収支は実質的に横ばい状態にある。すなわち受託、委託の作業内容が7年間ほとんど変わっていないのである。

スタイガー氏は独身で42歳、両親は78歳と76歳である。彼のリング活動は保有労力1.0という労働力事情、そして手間のかかるホップ作と養豚という経営形態を前提に行っている。粗収入は15頭の繁殖豚と80頭の肥育豚部門から72千マルク、4.5 haのホップ作から55千マルク、そしてリングの仲介により受託した作業料金16千マルクの計143千マルクである。リングを上手に利用することにより、ワンマンファームでも25haの経営地、ホップ作と養豚の専業経営が遂行できている事例である。

マネージャーは彼について次のように語ってくれた。「スタイガー氏は受託者が嫌う

表5　G.スタイガー氏の機械所有と利用状況

機械，作業機等	購入年	購入価格	年間利用量	うちリング	リング仲介の受託作業料金
労働力	——		2,700hr	145 hr	1,223.40 DM
トラクター(47PS)	1978	27,000 DM	450 〃	84 〃	843.80 〃
トラクター(60PS)	1978	30,000 〃	400 〃	8.5 〃	209.50 〃
バキュームカー(4000ℓ)	1976	8,500 〃	155,000 ℓ	139,200 ℓ	2,546.80 〃
プラウ(3連)	1978	5,500 〃	35hr		
砕土整地機	1975	2,000 〃	25ha	15.7 ha	282 〃
トウモロコシ播種機	1976	6,600 〃	72 〃	67 〃	2,004.10 〃
コンバイン(103PS)	1977	75,000 〃	75 〃	54.5 〃	9,634 〃
動力噴霧機	1975	2,800 〃	12hr		
ホップ用スプレーヤー	1973	10,300 〃	4.5 〃		
ホップ摘取機	1976	60,000 〃	100 〃		
ホップ用溝堀機	1972	1,200 〃	40 〃		
カッター	1973	1,600 〃	20 〃	2 hr	35 〃
計		230,700			16,778.60 〃

資料：1980年7月の個別調査による。
注）機械は購入価格1,000 DM以上のものとする。

小区画や作業条件の良くない注文も引き受けてくれるが、これは私にとってありがたいとともにリングの運営にとって貴重なパートナーである」と。79年に彼が受託したコンバイン作業は13件で54.5ha、1件当り平均作業規模は4.2haでピックルマイヤー氏の半分の大きさである。彼のリング活動におけるパートナーシャフトは、会員農家間の種々な作業需要の数多い結合こそがマシーネンリングの根本であることを物語っている。

③　J．スタットラー氏

同じく専業農家であって、リングの仲介を利用して機械作業の売手と買手になって機械投資の整理をするのがスタットラー氏である。彼の経営もやはり養豚とホップ作という複合経営であり、20haの経営地は8.5haを200頭規模養豚の自給飼料生産畑地に、6.5haを集約作目ホップ栽培園地に、残り5haを林地に利用する。粗収入は179千マルク、養豚部門から93000マルク、ホップ販売から78100マルクである。

表6　J. スタットラー氏のリング活動状況

≪作業受託≫

機械、作業機等	購入価格	リング受託量	リング受託料金
労働力	—	417.5 hr	4,066.50DM
トラクター(54PS)	40,000DM	112.25 〃	1,497.70
トラクター(75PS)	30,000 〃	100. 〃	790.
ボトムプラウ(3連)	5,500 〃	1.33 ha	48.
ディスクプラウ(2連)	2,500 〃		
砂土整地機	※ 3,000 〃	3.33 〃	100.
ダンプトレーラー(6t)	5,500 〃		
動力噴霧機	※ 1,500 〃		
草藁梱包機	14,000 〃	12,843. 個	2,519.20
ホップ用スプレーヤー	※ 7,500 〃		
ホップ摘取機	※ 12,500 〃		
計	122,000 〃		9,021.40

≪作業委託≫

機械、作業機等		リング受託量	リング委託料金
労働力		290.75hr	2,209.50DM
トラクター		37.25 〃	277.24 〃
バキュームカー		304. ℓ	594.80 〃
堆肥散布機		31.5 t	63. 〃
心土破砕機		5.66ha	153. 〃
穀物播種機		1.5 〃	220. 〃
トウモロコシ播種機		2.3 〃	69. 〃
コンバイン		5.5 〃	909. 〃
トウモロコシ収穫機		2.33 〃	605.80 〃
トウモロコシ乾燥機		17. t	935.74 〃
計			6,118.08 〃

資料：1980年7月の個別調査による。

注）所有機械の※は2戸共有をあらわす。

機械は購入価格1,000DM以上のものとする。

表6に示すように、大小とりまぜて10台の所有機械はリングをとおしてフルに稼動させる一方、コンバインやトウモロコシ用機械などは所有せずにそれらの作業をリングを仲介したパートナーに委せている。5種の機械作業と労働力を受託して9021マルクの収入を得、反対に10種の作業を委託して6118マルクを支払った。新規の固定投資を最小限に切りつめることにより、機械投資額（取得価額計）は122千マルクと低く押えている。農地用1ha当り機械投資額は8133マルクとなり、これはピックルマイアー氏の経営の半分、スタイガー氏の経営の3分の2以下と低い。経営の過剰投資を防ぐことがマシーネンリングの目的の一つであるが、具体的には1ha当り機械負担費の軽減として効果をみることができる。

このような経営方針は予め行ったアンケート調査の解答の中にも反映している。主要な点を挙げれば次のようである。

ⓐマシーネンリングの会員になった理由は……保有機械の有効利用と新規投資の抑制、補助労力の適期確保のため。

ⓑリング活動の効果を挙げると……機械費用の節減および労働報酬の獲得など。

ⓒリングの作業料金水準についての考えは……委託、受託者双方に満足できる客観的なものと思う。

ⓓ現在の機械保有と今後の機械投資についての考えは……トラクターはポップ作のために大小2台が必要である。ダンプトレーラーはリングの仲介によりさらに使用したい。ポップ用機械の更新を検討している。

ⓔこれからリングに何を望むか……自分としては委託する作業部門を増やすこと。リングには作業技術向上の研修や訓練、ならびに近隣リングとの合同活動を盛んにしてほしい。

25歳の長男が養豚経営のいっそうの発展をめざして専門的に勉強と修業を積み、農業マイスターの称号を取った。彼は「養豚経営のスペシャリストになりたい」といい、そのためにも「これから委託に力点を置いたリングの利用が必要」と考えている。リングの仲介をつうじて機械化による労働節約と固定投資の節約を合せて実現し、これらを集約作目ホップ栽培と養豚部門の拡充へふり向けている事例である。

④　J．ショーバー氏

4番目に、奥さんがお産で入院したため手間のない家事を代理してくれる経営ヘルパーを頼んだショーバー氏を訪ねた。彼は親子3人家族、しかも経営地35haの専業経営である。

ショーバー氏は２人目の子の出産に際して、公共法人オーバーバイエルン農業老齢会計（Landwirtliche Alterskasse）に経営危機の要請をし、お産の前後６週間、子供の育児や炊事、洗濯など家事一切を代行してくれる経営ヘルパーの派遣を受けたのである。この制度の認定業務をリングのマネージャーが担当しており、前述したようにリングがそれぞれの道の専門的技能を修得したヘルパーを仲介してくれる。経営ヘルパーは現在リングに男性６名、女性14名が登録されており、彼のところへは21歳のホルツという娘が仲介されてきていた。彼女は14km離れた自宅から毎日自家用車で彼の経営に通勤している。委託者の要請により、例えば経営主が夜の会合がある時には泊込んで子供の世話をする場合もあるという。

この経営（家事）ヘルプの受委託の決済も普通の機械作業と同様に、後日マネージャーの手を介して委託者ショーバー氏の口座から所定の料金が引落され、受託者ホルツ嬢の口座に作業料金として振込まれることになる。委託、受託者両者がリング会員であることから清算は容易に完了するのである。

専業経営である彼は２台のトラクターやコンバインをはじめとして20台の農業機械を所有する。もちろんリングを仲介してこれらの機械を稼動させており、79年には９機種で８０１６マルクの受託、１３１６マルクの委託を行った。普段は奥さんが家事と一部軽作業を手伝うワンマンファームであるが、リングをうまく利用して経営を維持発展させている。

⑤　E．バッハマイアー氏

最後に訪問したバッハマイアー氏はリングを委託者として利用することによって経営を合理化している。67年に搾乳牛を13頭飼育していた酪農をやめ、６haあった牧草地もすべて畑地にした。現在28haの農用地はホップ作に4.5ha、穀作に20ha、飼料トウモロコシ作に２ha、ジャガイモ作、ビート作、草地にそれぞれ0.5haづつ利用する。そして畜産は養豚経営一本に絞り、繁殖豚15頭、肥育豚80頭を飼育している。

バッハマイアー氏が委託者としてリングを利用するのは労働力事情からである。彼は59歳、晩婚のため子供は長女18歳、次女17歳、長男14歳とまだ小さい。彼は75年に52千マルクでコンバインを購入したが、自分では操作が思うにまかせないため77年に隣家に売却した。リング活動はコンバイン作業をはじめトウモロコシ用機械、バキュームカーなどはリングを仲介して作業を委託し、反対に所有する３台のトラクターや堆肥散布機、穀物播種機はリングを仲介して作業を受託している。79年にはリングの仲介で４８９９マルクの委託、７１９マルクの受託を行った。

一つの特徴的なことは、彼のリング仲介による委託、受託のパートナーは全員が集落内の会員農家であること。この集落はリング加入率が高く、23戸ある農家のうち20戸はリング会員農家である。必要な機械作業はすべて集落内で調達できるため、マネージャーは彼に固定投資をさらに控えるように助言している。75年に一旦購入したコンバインを自己完結に使っていたとすれば、79年に委託したコンバイン作業料金が3120マルクだから、固定投資で17年間はコンバイン作業を委託できることになる。しかもこの間の利息負担と困難な機械操作の気苦労なしにである。

以上5戸とも当地域における典型的な専業農家であるが、これら会員農家の事例は現在のマシーネンリングのはたらき、実態をあらわしている。会員農家には作業の売手になる者もいれば、買手に回る者もいて、また両方を兼ねる者も少なくない。しかし機械および労働力の保有と利用の調整をつうじて経営合理化の利益を得ている点ではいずれも共通である。受託する者はピックルマイアー氏のように機械化が進行している畑作部門で積極的に固定投資をしながら、リングの仲介によってその機械装備と保有労力の稼動率を高めて費用の節減を実現するのに対して、委託する者はスタットラー氏やバッハマイアー氏のようにリングの仲介をつうじて機械に投資することなく機械化による労働節約を実現しているのである。とくにワンマンファームという労働力構成農家にあっては、マシーネンリングのはたらき、パートナーシャフトの存在は大きいといえる。

(3) リングの発展とパートーシャフト

先に述べたように、ほぼ郡を管内区域とするマインブルク・リングは70年にマネージャーを専任制にしていっそう発展を遂げた。管内総農家の39%、全農用地の59%をリング活動のシェアーに組み入れている。表7は会員農家の専兼業別構成についてみたものである。専業農家が60%以上を占め、第1種兼業農家がおよそ30%、第2種兼業農家が10%以下という構成割合である。会員数増加のなかで第2種兼業農家の加入も順増しているが、専業農家がなお過半を上回っている。20年の歴史を有するこのリングでただ一度行われた会員農家の農用地規模別構成調査をみれば、会員農家の36%は10〜20ha属し、30〜50haの層がこれについで19%、20〜30ha層と10ha未満がそれぞれ18%づつ、50ha以上層が9%となっている。

リングに加入する農家構成をもう少し明らかにしておこう。リングに加入する会員農家はリング活動面から受託、委託、受委託両方、不活動（休業）の4タイプに分けられる。この類型でみると受託だけが11%、委託だけが31%、受託委託の両方が39%、不活

表7　会員農家の専兼業別構成

	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家
設立時	23戸（76.7%）	6戸（20.0%）	1戸（3.3%）
1967年	230〃（68.4）	92〃（27.4）	14〃（4.1）
1971年	188〃（55.6）	129〃（38.2）	21〃（6.2）
＊1973年	208〃（55.8）	135〃（36.2）	30〃（8.0）
＊1977年	342〃（63.8）	149〃（27.8）	45〃（8.4）
＊1979年	371〃（61.5）	164〃（28.5）	60〃（9.9）

資料：「マインブルク・リング年次報告書」各年次より作成。
注）＊は農家以外の会員、例えば農機具商等を除いてある。

動が19%という構成である。リング利用はもちろん会員農家の経営形態に基づく労働力事情、機械設備の装備状況、作付作物などによって異なるが、大規模経営層のリング加入が圧倒的に多く、本来委託に回るべき小規模の第2種兼業経営のリング加入が依然低調であることを重視しなければならない。

さらに、管内総農家数はリング創設当時より500戸以上減少しており、兼業経営並存の政策路線が打ち出された70年以降に限ってみても年率1.8%と、農家数減少の勢いは60年代よりむしろ強まっているのである。1～2 ha層の減少率がいちばん高く、2～5 ha層と合せて第2種兼業農家が大半を占める5 ha未満層で平均の減少率を大きく上回っている。反面、この間に平均経営規模（農用地1 ha以上の農家）は60年の9.4 ha、70年の10.9 ha、79年の13.0 haと拡大した。

バイエルンの道と呼ばれる一貫した農業振興策の推進にもかかわらず、バイエルン州の農業構造は農家数減少、兼業農家増大の方向に動いている。州全体の農家数減少の動向は60年代が年率1.5%、70年代が年率1.8%と減少率は強まる一途であり、また州全体の第2種兼業農家割合は71年の41%から77年には49%に高まっている。

この20年間にマシーネンリングが発展したことは否定するものではないが、ガイヤースベルガー博士が提唱した“全階層農民を動員するパートナーシャフト”はまだ十分に実現しているとはいえない。

マシーネンリングを利用して利益を受けているのは主として経営規模の大きい専業農

家層であり、中小零細な兼業農家層はいまだ蚊屋の外に残されたままである。それのみならず、リングが仲介する機械作業を前提に作目編成を決定し、保有機械の調整を積極化することによって、最終的にはマシーネンリングが会員農家の外部経済として機能しているのである。リングにおけるパートナーシャフトが充実すればするほど、そのことがいわゆる階層間格差の拡大に手を貸すことになっている一面は見逃せない。

（つづく）